# 夢トーク63

## 将来の夢は「プロバスケットボール選手」

久米　紗奈 さん
（江刺区・藤里小学校６年）

Interview

――学校での役割は？

計画委員会の委員長です。募金活動やレクリエーションの計画をしています。学校のみんなが募金に協力してくれてうれしかったです。

――小学校生活の思い出は？

修学旅行の遊園地でジェットコースターに乗ったことです。初めて乗りましたが楽しくて、友達みんなで６回も乗りました。

――好きなスポーツは？

バスケットボールと水泳です。４年生の時からスポーツ少年団の藤里ミニバスに入っていて、今はキャプテンです。最近、苦手だったジャンプシュートができるようになりました。

――中学校へ進学したら、やってみたいことはありますか？

バスケットボールを続けることと生徒会に入ってみたいです。

――将来の夢を教えてください。

プロバスケットボールの選手です。去年、岩手ビッグブルズの試合を見て憧れました。

――夢を叶えるために頑張っていることは何ですか？

家でも、シュートやドリブルの練習を頑張っています。

中高生の部活動や委員会活動を紹介

# 青春讃歌 27

## 水沢中学校 生徒会執行部書記局

◎役員数　13人
◎顧問　高橋　勇樹 先生
　　佐藤　和香奈 先生
◎会長　千葉　琉宇成（りゅうせい） 君（３年）

## 全校一体となれる　そんな水中の良さを引き出したい

19人からなる水沢中学校生徒会執行部。その運営や議事の進行を行うのが書記局の７人です。来年度の体制に向けた選挙が終わった今は、引き継ぎのため、新役員を加えた13人で活動しています。

個性的な人が多く、元気で明るいのが現執行部の特徴だと語る会長の千葉琉宇成君。よく冗談を言っていても、いざというときは頼りになる仲間たちだと、信頼を寄せます。そんな彼らが取り組んできたことが「４人グループの活性化」です。

執行部は、運動会の運営などでも活躍

４人グループとは、授業の時などみんなで課題に取り組むときに、生徒が互いに支援する仕組みです。１年生が上級生を見学して取り組みを学ぶなど、先輩から後輩に受け継がれています。会長自ら「水中の宝」と語る通り、この活動を通じて学校にまとまりが生まれています。

他にもあいさつの活発化やボランティアの呼びかけなどを行ってきた執行部。その一員として１年間活動し、来期から新会長を務める菅原聖菜（せな）さんは、「先輩たちから学んだことを生かし、今以上の生徒会を目指します」と目標を掲げました。

この１年を振り返り、「自分が話すとき、生徒のみんなが自分を見て話を聞いてくれたのがうれしかった」と感謝する千葉会長。顧問の高橋先生は「自分たちでいろいろ考えて行動していた。残りわずかだが次の代に何か残してほしい」とねぎらいました。



◉どんなときも一緒の素敵な夫婦を紹介

# 雨の日も晴れの日も 27

細　川　　忍　さん（37）
　　望　美　さん（35）
＝前沢区古城字姥屋敷＝

ことし９月、自宅を改装した美容室をオープンさせた細川夫妻。妻の望美さんが美容師を務めるそのお店「ｐｏｗａｎ（ポワン）」は前沢区古城の姥神社の南にあります。

共通の友人を介して知り合ったという二人。お互い探り探りで、最初は連絡先も交換しませんでしたが、音楽の趣味が合ったこともあり交際をスタート。結婚９年目で、１男１女に恵まれています。

水沢区の美容室に勤めていた望美さんですが、小学生になった子どもたちを家で待っていてあげたいと開業を決意。そんな望美さんの背中を押したのが忍さんでした。自宅の改装の際には、自ら木を切るなどしてお店周りの環境を整えたほか、内壁の壁塗りも担当。そんな夫の支えに感謝する望美さんに、「妻が家にいてくれてうれしい」と、忍さんも笑顔で応じます。

「前沢はイベントが多くて楽しい」という金ケ崎町出身の望美さん。実は忍さんもそのイベントに一役買っていて、古城３区の青年会「次世（じせい）会」の一員として活躍中です。忍さんは「古城３区は活動が盛んだ」と胸を張ります。

「緑を増やすなど、もっとお店への思いを語る望美さん。お客さんへ居心地のいい空間を提供するため、日々がんばっています。

# おうしゅう羅針盤 Oshu

奥州市長　小沢昌記

11月19日に、国道397号新小谷木橋（仮称）の安全祈願祭に出席し、新橋の無事完成を願いました。新橋は、地元振興会や奥州商工会議所の長年の要望がかなったもので、現在の橋の１３０㍍上流に建設され、平成32年度の開通を目指し工事が本格化します。沿岸南部と本市を通る陸路の要衝として、南岩手発展の礎になることを望みます。

11月19日、江刺中核工業団地内の総合試薬メーカー関東化学㈱に増設した医薬品工場の竣工式に出席し完成を祝いました。埼玉県の草加工場に次ぐ医薬品原薬の製造拠点となります。増設に係る投資額は25億円。年間生産高は、現在の約24億円の倍以上になる見込みであり、15人を新規採用するということです。同社のさらなる発展と雇用拡大を大いに期待します。

高級江刺リンゴ「サンふじ」が、11月に盛岡で行われた初競りで一箱（10㌔・28玉）が過去最高額に並ぶ１１０万円で落札されました。また、10月に開催された全国肉用牛枝肉共進会では、前沢区の飯坂昇一さん肥育の「前沢牛」が最優秀賞の栄誉に輝きました。あらためて本市産農産品の品質の高さを感じました。生産者が丹精込めて育てた自慢の品を、全国にアピールしてまいります。

11月１日、スポニチ奥州前沢マラソンが開催されました。29年度から市内３つのマラソン大会を一本化し、新マラソン大会となることから、同大会はラストランとなり、惜しまれる声をいただきました。新マラソン大会は、この思いを引き継ぎ、県内外から多くの愛好者がこぞって参加いただくような、素晴らしい大会にしたいと思います。